

# 学会参加報告書

R20-040 佐藤彩乃

学会名：EANM.23 参加報告書

発表のセッション New Radiopharmaceuticals - PET

発表形態 e-Posters

発表日時 2023年9月9日~13日（Web掲載のため）

## はじめに

2023年9月9日から13日までの5日間、オーストリアのウィーンで行われたEANM23に参加しました。目的は、国際学会で研究内容をポスター発表することに加え、規模の大きい国際学会に参加して、核医学だけでなく医療技術に対する視野を広げたいと考えたためです。



## 国際学会に参加するまで

ウィーンまでの航空券やホテルの予約は、エクスペディアの航空券とホテルがセットになったものを予約しました。飛行機を直行便にするとかなり費用がかかってしまうため、大阪から香港、香港からドーハ、ドーハからウィーンと2回の乗り継ぎがある往復航空券のプランを選びました。このプランはトランジットの滞在時間が長時間であったため1日と7時間かけての移動でした。

往路で1つ目の経由地香港に到着した際、乗り継ぎの保安検査場への行き方がわからず苦戦しました。空港内の方に聞いても広東語で返事が返ってくるため全く理解できないにも関わらず、私たちが真逆の方向に向かって行くと正しい道に誘導してくれるなど助けてくださり、海外の方の優しさに触れることができました。香港では6時間の乗り継ぎ時間があったため、9時間近くかかる次のフライト（香港-ドーハ）に向けてストレッチをしてのんびりと過ごし、工夫しながらトランジット時間を楽しみました。トランジット時間に散策してみましたが、ドーハはとても物価が高く、空港内ではお土産以外に買えるものは限られていました。友人と2人だけで海外に行くことは初めての経験でしたが、経由地の空港を散策したり、経由地の現地の言葉を使ってみたりと、不安は一切なく楽しみながら目的地に向かうことができました。ウィーンに到着するまでの行程で、言語はもちろんのこと、物価や空港内の広さが日本と違い、様々な初めての経験ができました。

## EANM23 会場の様子

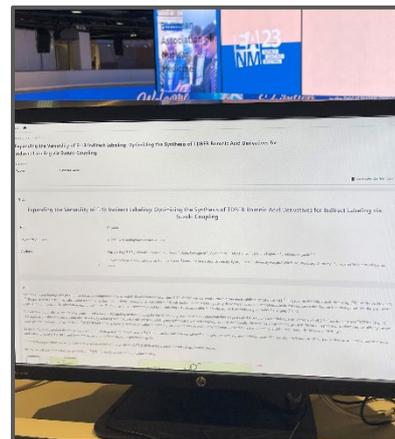
会場はお祭りのように明るく、カフェやジェラート売り場も設備されていました。学生限定のラウンジ内には、ドリンクの他にクロワッサンやクッキー、フルーツなどが自由に飲食できるようになっていました。

会場には 10 個のホールがあり、各ホールで研究発表や公開討論が行われていました。展示会場では約 100 社の出展がありました。私たちは、展示会場内で Spectrum Dynamics Medical の日本人の代表の方、SIEMENS の日本人の社員の方と出会い、診療放射線技師を目指す学生であることを伝えると、丁寧にわかりやすく装置の説明をしてくださりました。



## 発表内容について

生理活性物質を放射性同位元素 F-18 で標識した化合物は、PET のプローブとして利用されています。F-18 導入には $[^{18}\text{F}]\text{F}^-$ による求核置換反応が主流となっていますが、電子豊富な芳香環への導入は一般的に困難です。これまで、私たちは新たな F-18 標識法として、鈴木カップリング反応を用いた間接標識試薬であるボロン酸誘導体 4-(4,4,5,5-Tetramethyl-1,3,2-dioxaborolan-2-yl)- $[^{18}\text{F}]\text{fluorobenzene}$  (4- $[^{18}\text{F}]\text{TDBFB}$ ) を報告しています。そこでさらに今回は、TDBFB の汎用性を向上させるため、さらなる検討を行った結果、 $[^{18}\text{F}]\text{TDBFB}$  の合成法改善及び応用にも成功し、本間接試薬の汎用性が拡大できる可能性が示されました。以上の内容について e-Poster にて発表を行いました。



## 学会参加の感想

展示会場内には新機能が搭載された装置があり、今後私たちが操作する機会があるかもしれないと思うととても興味深いと感じました。私が一番興味を持った装置は、ガンマカメラのコリメータを自動入れ替えが可能な装置です。私は病院実習でコリメータの入れ替えを経験しましたが、重くて思うように動かすのが難しく、時間もかかっていました。自動でコリメータの入れ替えができる装置は、操作者の負担を減らしかつ時間短縮につながり、大変魅力だと感じました。核医学だけでなく、医療機器を自動にすることによって利点が増える装置が他にもあるのか興味を持ちました。

また、国際学会に実際に参加し、より理解しようとするためには専門の基礎知識が必要だと実感しました。しかし、講義や実習で学んだ検査方法や装置を、展示会に参加している日

本の担当者様がわかりやすく説明してくださったため、日本だけでなくヨーロッパで多く利用されている検査も知ることができました。

### ウィーンに行った感想

私たちが訪れた9月は気温が20~30°Cで雲一つない晴天でとても過ごしやすかったです。ウィーンは音楽の街と言われていることもあり、カフェやお店など至る所でクラシック音楽が流れていました。まるで映画のような街並みを実際に見て、広々と感じられる街がとても気に入りました。初めてのヨーロッパでしたが、ウィーンに滞在している間は不安や恐れは全くありませんでした。しかし、復路での経由地ドーハから香港に向かう際、預けていたスーツケースが確認できないと言われ、すごく不安になりました。搭乗口で荷物が確認できないため待たされ、電話でいくつか質問を受ける事態となりました。今までの海外の経験では、言語よりもジェスチャーを駆使して会話してきたため、ジェスチャーが使えない電話は不安と焦りでいっぱいでしたが、私が英語を上手に話せないと言うとゆっくり話してくださったため、無事荷物の確認もでき、日本で受け取ることができました。結果的にドーハにおいても人々の優しさに触れられるいい思い出となりました。

2つの空港を経由したため、1週間もない短期間で英語、広東語、中国語、アラビア語、ドイツ語と多くの言語を耳にしました。全く理解できない言語でも、香港、ドーハ、ウィーンすべての国で、ジェスチャーやトランスレータで対応をしてくださる方が多く、多くの方に支えられていることを実感しました。

### 最後に

国際学会への参加は、私にとって非常に貴重な経験であり、新たな視野を広げる機会であると痛感しました。この学会への参加を通じて、私は自身の興味を追求する勇気を持ち、新たな知識と観察力を得られたと感じました。最終年度の学生生活に、国際学会に参加するというとても良い経験をすることができました。改めて、このような機会を設けていただいた玉木学長、島津奨学金制度に感謝申し上げます。